11月3日文化の日は〝みなと〟の哲学トークイベント第2弾！

# 映画監督 × 哲学者

**『カメラを止めるな！』はなぜ生み出されたのか、「哲学」の視点から解き明かす。**

**映画監督と哲学者が、これからの日本社会について語る――**







## 映画監督 上田慎一郎 SHINICHIRO UEDA

1984年、滋賀県出身。中学生の頃から自主映画を撮りはじめ、高校卒業後も独学で映画を学ぶ。2009年、映画製作団体PANPOKOPINA（パンポコピーナ）を結成。『お米とおっぱい。』『恋する小説家』『テイク8』等8本の映画を監督し、国内外の映画祭で20のグランプリを含む46冠を獲得する。2017年、初の劇場用長編『カメラを止めるな！』が2館から350館へ拡大する異例の大ヒットを記録。三人共同監督作の『イソップの思うツボ』が2019年8月に公開、そして劇場用長編第二弾となる『スペシャルアクターズ』が同年10月に公開。現在、監督・スタッフ・キャストが対面せず〝完全リモート〟で制作した短編映画『カメラを止めるな！リモート大作戦』が5月1日よりYouTubeにて公開中。



## 哲学者 樋笠勝士 KATSUSHI HIKASA

神田外語大学、上智大学を経て、現在は岡山県立大学教授。非常勤講師として慶應義塾大学等で教鞭を執る。専門は西洋古代中世哲学及び美学芸術学、その他九鬼周造哲学や記号論、バウムガルテン哲学も研究。学会では中世哲学会常任理事、新プラトン主義協会理事をつとめ、美学会、日本哲学会等にも所属。美学哲学コロキウム（ツイッター）を主宰し、プラトン、プロティノス、ドゥルーズなどの各種読書会を開催している。研究成果は『存在論の再検討』（共著、月曜社）、『光の形而上学』（共著、慶應大学出版会）、「バウムガルテン『形而上学』訳註」（成城大学）等。現在の研究テーマは「光の美学」と「虚構論と複数世界論」。

## 司会 持地秀紀 HIDEKI MOCHIJI

上智大学大学院哲学研究科博士後期課程在籍。専門はフランス哲学（ベルクソン研究）。神奈川大学KUPS「芸術の哲学（映画）」講座担当

| | |
|---|---|
| 定員 | 200名 |
| 参加費 | 1800円 |
| 開催方法 | オンライン（Zoom） |

**申し込み方法**

右のQRコードを読み取ってサイトへアクセスし予約申込フォームを入力して送信☞

「みなと」が開催する哲学イベント情報はこちらから！

主催 ： みなとホールディングス株式会社